

今月の
いいね!

きれいなタコには毒がある!?



ヒョウモンダコ

【名前】

ヒョウモンダコ (八腕形目マダコ科)

【すむ場所】

房総半島以南。

【大きさ】

全長 10cm

【当館で見られる場所】

きらきら★ラグーン

【特ちょう】

興奮すると、名前の由来である青くきれいなヒョウ柄模様があらわれる。小型のタコだが、フグと同じ毒(テトロドトキシン)を持ち、かまれると危険。

【担当学芸員から一言】

もとは温かい南の海で見られるタコでしたが、近年は静岡県でも確認されています。見つけても絶対に触らずに、そっとしておきましょう。(Y.I)

トピック

資料のメンテナンス

博物館で展示あるいは所蔵している数多くの資料には、定期的なメンテナンスが必要です。例えば、はく製では虫よけの薬を交換したり、ひび割れを補修したりします。また、液浸標本では使われる液体の薬品を補充したり、交換したりすることも必要です。資料を良い状態に保つためにそれぞれの方法で対処しています。

これらの中でも一番大がかりな作業は、大型生物の骨格標本の上に落ちたホコリを払う作業です。巨大なクジラや恐竜の骨格標本の入り組んだ頭や、数の多い肋骨部分などをきれいにします。このように定期的なメンテナンスを行い、大切な資料をいつまでも状態良く保存しているのです。(S.T)



骨格標本の掃除

あれこれ

アマダイ三色そろいぶみ！！ ー並んだ～並んだ～♪アカ・シロ・キイロ♪♪ー



上からアカ♪シロ♪キイロ♪

アマダイの仲間はスズキ目アマダイ科アマダイ属の魚で、日本ではアカアマダイ、シロアマダイ、キアマダイの他、ハナアマダイ、スミツキアマダイの5種が知られています。このうち前の3種は水産対象種で、静岡市周辺でも釣りや刺網などで漁獲されます。市場で扱われるのはアカがほとんどで、シロについては水揚げも非常に少なく、高値で取引される高級魚です。またアマダイ類は、「興津鯛（オキツダイ）」とも呼ばれますが、これは徳川家康に関係しています。諸説ありますが、「大奥で仕えた興津の局が献上した」あるいは「興津でとれた」アマダイの干物を家康が好んだことに由来するそうです。

アマダイ類は数十m～300mの深場に住むため生体の採集や飼育が難しい魚です。特に個体数の少ないシロアマダイやキアマダイは、なかなか水族館で見ること出来ません。当館ではアカアマダイを継続的に飼育展示してきましたが、ここ数年でキアマダイの採集・長期飼育にも成功しました。さらにシロアマダイについては、以前より漁師さんに協力をお願いしており、今回状態の良い個体を入手することに成功しました。そのため、今水槽にはアカ♪シロ♪キイロ♪のアマダイを飼育展示中です。この美しいアマダイたちを見に、水族館へ足をお運びください。(K.Y)

コラム

海の中のウサギたち

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。2023年は卯年になります。そこで今回のコラムでは、「ウサギ」にちなむ海の生き物を紹介したいと思います。

●**アイゴの仲間**：アイゴの仲間は、顔つきがウサギに似ているため、英名で「ラビットフィッシュ」と呼ばれています。背びれなどに鋭く毒のあるトゲをもっているため、扱いには注意が必要です。しかし、沖縄などでは稚魚をスクガラスと呼ばれる塩辛にして食べるなど、食用にもされる魚です。

●**トビハゼ**：トビハゼの仲間は、泥の上を飛びはねる様子から中国では海兎（海のウサギ）と呼ばれています。干潟にすみ、主に呼吸は皮ふで行うため、水中に長時間いるとおぼれてしまうこともあります。また、近年は環境汚染や干潟の埋め立てなどにより生息地が減少し、環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されています。

●**ギンザメ**：ウサギのような歯を持っていることから、北海道などで「ウサギザメ」と呼ばれています。その歯で、底生の甲殻類や魚類などをつぶして食べます。水深700mまでの深海にすみ、胸びれを使い海底を飛ぶように泳ぎます。

お正月期間は、海洋科学博物館だけでなく自然史博物館でも様々な「ウサギ」にちなむ生き物を展示していますので、ぜひこの機会にいろいろな「ウサギ」を見に来てください。(Y.I)



トビハゼ



アカギンザメの標本

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。